

平成28年度2学期終業式（平成28年12月22日）

終業式に先立ちまして、12月16日（金）にご逝去されました植木昌二郎先生のご冥福を生徒及び教員全員でお祈りしました。

終業式では、ピアノコンペティション全国大会及びいのちと献血俳句コンテストで優秀成績を残した生徒と合唱部・書道部・男子軟式テニス部・水泳部・女子バドミントン部に表彰の伝達を行いました。また、後期生徒自治会の役員の紹介と自治会活動への協力依頼がありました。

2学期終業式校長式辞

みなさん おはようございます。

今日で2学期が終わります。きっと一人ひとりが充実した2学期を過ごしてきたことと思います。

今日の話は、今から1年ほど前にノーベル賞を受賞された京都大学の山中教授の講演会を聞く機会がありましたので、紹介します。皆さんもよく知っているように、IPS細胞、日本語では人工多機能性幹細胞を初めて作られた功績により受賞されました。患者自身から採取した細胞をIPS細胞にすることにより、病気になっている臓器や失われた組織を作り、拒絶反応のない治療が理論上は可能と言われています。先生のお話の中で特に印象に残っている話を紹介したいと思います。先生は、東大阪市の出身で高校時代にはラクビーをされていました。その高校時代にお父さんを輸血が原因の病気で亡くされています。その悔しさから、医者をごころざし、「今治せない病気を、将来、治したい」と思われたそうです。また、先生はスポーツが大好きで、アスリートのけがを治したいとの思いから最初は整形外科医になられましたが、手術が下手で臨床医をあきらめて、研究の道を進まれたそうです。

皆さんも、日々の生活で失敗の繰り返しだとおもいます。しかし、失敗の中にも小さな成功体験があるはず。その小さな成功体験も積み重ねることにより、自信へとつながります。どうか、やればできるという自信を持って高校生活を過ごしてください。

私の大好きな元校長先生はこう言っています。先生は、学生時代に柔道に打ち込み、自分の体力・精神力の限界は自分が思っているよりももっと先にあることを知ったと言っています。なぜなら、その時は死ぬほどしんどいと思っても死ぬことはなかったしどうもなかったからだそうです。みんなも、限界だと感じることもあると思いますが、本当の限界はもっと先にあると思ってください。

新しい年を迎えることも生活における大きな区切りです。この区切りに際して、1月からの自分の生活を振り返ることが大切なことと思っています。そして、振り返ると同時に次の目標設定をして気分を新たに取組んでください。

この冬休み、皆さんが事故なく全力を発揮することを期待しまして、終業式の話とします。